

8月12日(水)

＜富山駅から立山駅、室堂より剣沢、長次郎谷雪渓から熊の岩＞

北陸新幹線が出来てから富山駅に来るのは初めて、見違えるほど綺麗で広々とした駅に感激しました。いっぽう富山地方鉄道は昔と変わらず良い味を出しているが変わった地鉄も期待した。変わらぬ地鉄で立山駅までのんびり車窓を楽しみながら立山駅まで。立山駅も昔と変わらず、そこからケーブルに「乗り換えるケーブルカーは外観デザイン可愛らしくなっていた。美女平から立山高原バスにて室堂まで、後ろには富山湾、右手には鍬崎山、薬師岳、正面には立山、左手には大日岳、そして剣岳が見えてくる。

室堂は多くの観光客でいっぱい、立山が目の前に聳え立っている。水をくみ歩き出す。みくりが池にはきれいに立山が浮かんでいる。雷鳥荘で日比野君があづけた無線を受け取る。地獄谷からの有毒ガスがきつい。雷鳥平への道はきれいに整備され歩き易くなっていた。雷鳥平キャンプ場はテントは少なく感じた。剣御前小屋まで来ると剣岳がせまってくる。剣岳に向かってどんどん歩く、剣沢テント場もそれ程混んでいない。水を汲み剣沢を下っていく。雪渓は昨年より少ないが雪はしっかり有る。アイゼンを履き平蔵谷を過ぎ長次郎谷出合が見えて来た。出合に見慣れた二人の姿があった。長次郎谷から熊の岩まではきつかったが八ツ峰、源次郎尾根を見ながらは楽しかった。熊の岩に着き良い場所にテントを張ることができ安心する。

(記：雫)



12日朝は天気よし



残雪と剣本峰、八ツ峰



八ツ峰



熊の岩

8月13日（木）

天候：雨

コースタイム：

起床(3:30)、熊の岩発(6:00)、一本(7:15～7:26)、稜線(7:48～7:57)、劔岳山頂(8:23～8:50)、稜線直下の雪渓(アイゼン装着)(9:30～9:43)、熊の岩着(10:30)、消灯(20:00)

朝から予報通り雨。テントの外は真っ白で何も見えない。当初予定ではCフェイスを登る予定であったがこの天候では無理なので、長次郎谷左俣の雪渓を詰めて劔本峰に登ることにした。

熊の岩から上を見て左側の雪渓を登る。斜度は最初からきつい。しばらく左寄りに登っていくと岩とクレパスに行く手をさえぎられる。右にそれて進むとまたクレパスに当たる。これを何度も繰り返す。2時間近くかかって稜線に出た。ここから劔岳山頂までは特に迷うことなく30分弱で到着。山頂には一般ルートから登ってきた先客が数組いた。雨で何も見えないが30分近くのおんびりして同じルートで下山。

この日はお昼過ぎまで雨が降ったりやんだり、岩が濡れていて登攀できないと考えていたが、午後雨がやんだのを見計らって登りに行ったパーティーが2組いた。後で話を聞くと標高の高いところでは岩が乾くのが早いそうだ。

(記：日比野)



雪の壁が連なる



山頂への尾根歩き



岩壁に当たり右にそれる



劔岳山頂



熊の岩



熊の岩から八つ峰

8月14日(金)

天候：雨

未明より強風・強雨で天候は大荒れである。前日よりひどい天候で停滞するしかない。テントの中でラジオを聴いたり、新聞を読んだり、昼寝をしたりして時間をつぶした。時々雨が小雨になったときを見計らってトイレに行き、身体を伸ばした。

登攀開始時間のリミットは午後1時と考えていたが、その時間になっても雨は降り止まず、この日の登攀は無理だと判断した。

ところが、3時くらいになって他パーティーが登攀を開始した。しかも大きなザックを背負って取付きまで行ったので、登攀後下山するようだ。

前日の悪天候下での登攀や今日の午後遅くからの登攀など、我々の想定外の発

想とレベルであり、かなりの衝撃を受けた。

登攀技術の高さ、天候と岩場状態の観察力など違いを感じずにはいられなかった。

明日は下山予定日だが、天候も回復が見込まれるため何としても1本登って帰りたいと強く思った。

8月15日(土)

天候：晴れ

コースタイム：3:00 起床～4:30 熊ノ岩発～5:10 八ッ峰VI峰Cフェース剣稜会ルート登攀開始～7:30 Cフェースの頭～8:30 V・VIのコル～8:50 長次郎雪渓～9:40 下山開始～10:20 剣沢出合～10:45 平蔵谷出合～11:30 雪渓終了～12:50 剣沢キャンプ場～14:00 剣御前～15:15 雷鳥平～16:10 みくりが池温泉～16:30 室堂
室堂 17:05(バス)～17:55 美女平(ケーブルカー)18:05～18:12 立山 18:24～19:28 富山 19:59～かがやき～22:07 東京

3時に起床。今日は下山日だが、昨日までの悪天から一転、良好な天気が予想されたので八ッ峰VI峰Cフェース剣稜会ルートに登攀することにした。

今日中に帰宅できない可能性もあったが、何としても剣の岩を1本登りたい！という気持ちが勝り、無理を言って登らせてもらうことにした。

4時過ぎには続々と長次郎雪渓を上ってくるパーティーが見え、先頭の5人組がCフェースの取付きに向かった。

遅れてはならんと、日比野・須田も準備を整え出発する。幸い、Cフェース剣稜会ルートには先の5人組しかおらず、我々は2番目に登攀できた。

Cフェースは八ッ峰VI峰フェースの中では最も大きい、全体的に傾斜は緩く、技術的には最も優しい。2級程度で、取付きから頭まで約155mで5～6ピッチ。去年の夏合宿では同フェースのRCCルートを登っているが今回1番異な

るのは河野さんの不在である。我々2人とも岩の本チャンは河野さんがリーダーの山行しか経験がない。私は今回初めて岩の本チャンのリーダーをやるにあたり、無論それなりの準備は整えてきたつもりだが、正直不安もあった。

しかしながら、1ピッチ目、トップを志願して登り始めると、不安感よりも楽しさが勝り、目の前の登攀に集中できた。

傾斜も緩くホールドも大きい、ランニングビレーの間隔が遠い。まだ身体が岩に馴染んでいないので慎重に登っていく。

40m程でしっかりした支点があったので、そこでピッチを切る。日比野さんもやはり最初なのでいつもより慎重に登ってくる。取付きにはいつの間にか雫さんが居て、我々にカメラを構えていた。雪渓を上ってきた2人組のパーティーも取付きで準備をしている。

日比野さんが確保地点まで来ると、私が持っているヌンチャクを渡して日比野さんがリードで登り始める。いわゆるつるべ式で交互にトップを替わって登っていく。

30m位フェースを登り、2ピッチ目を切る。3ピッチ目は私がリード。左側リッジ寄りのフェースを登っていく。先行パーティーがビレイポイントで待っているのが見えるが、ロープがそこまで届かない。向こうは50m以上のロープを使用しているようだがウチラは45m。仕方ないので少し下でピッチを切る。年季の入ったハーケンが3本あったのでハンマーで叩いて強度を確認すると、意外やしっかり効いている。

日比野さんは私を追い抜いて10m先のナイフエッジの手前にあるリッジ上の広いテラスでビレイを取った。

この先5ピッチ目がナイフエッジを右へトラバースしていく核心部である。日比野さんも登りたがっていたが、俺に登らせて～！！と頼み込んでリードをやらせてもらった。

ナイフエッジの向こう側はスッパリと垂直に切れ落ちていて高度感があり、隣のDフェースを登攀しているパーティーがかなり下方に見える。くらくらする程の高度感だ。エッジをホールドにしてトラバースしていくと、心地よい緊張感で思わず声が出る。最高の気分だ。

エッジの先でピッチを切り、先頭を交代する。カンテ・ラインに沿って25m程登っていくとCフェースの頭に出て登攀終了である。

日比野さんとガッチリ握手を交わして登攀成功を喜び合った。取付きから2時間20分なのでなかなかのペースだ。

会旗を持って一人ずつ写真を撮り、下山の準備をした。最初はCフェースのRCCルートを懸垂下降しようかとも考えたが、落石の危険を考えてV・VIの科尔から下りることにした。

八ッ峰縦走ルートを通してV・VIの科尔を目指す、これがなかなか険しい。途中何か所かロープを出して懸垂下降しようかという所もあったが、何とかロープなしで慎重に下降できた。V・VIの科尔からはザレた道を転がらないように気を付けながら下降した。

雪渓まで着くと、既にテントは撤収済みで、雫さんが我々のザックをテン場から運んで来てくれている最中だった。大変な難かったし、さすがである。

ザックのパッキングをして早々に下山し始めた。ここから室堂までは遠いが、頑張らないと今日中に帰浜できない。

長次郎雪渓を下ってからの剣沢雪渓の上りはかなりきつかった。剣沢小屋で室堂から富山までの交通機関の時刻を確認した。美女平行きの最終バスには間に合いそうだ。途中、温泉に入る時間も入りそうだ。とわかり、がぜんやる気が出た。

剣沢キャンプ場、雷鳥平キャンプ場ともに行きに通った時よりもかなりテントが増えていた。いつか雷鳥平にテントを張って、日比野さんおススメの雷鳥荘の温泉にゆっくり浸かってのんびりキャンプしたいねー、などと叶わぬ夢を語りな

がら最後の上りを歯を食いしばって歩く。ゴールが近づいてくるにしたがって、肩の痛みが酷くなる。しかも、みくりが池温泉で温泉に入るつもりが入浴時間を10分程過ぎていて入れず、心と身体へのダメージは最高潮に達した。

何とか気を取り直して室堂に着くと、最終バスの一本前のバスに乗れた。バス～ケーブルカー～富山地铁と乗り継ぐと、何とか北陸新幹線かがやきの指定席が取れた。

豪華な二段重駅弁を食べながら快適に帰りの途に就いた。日付が変わる前に帰宅でき、長い一日が終わった。本当にお疲れ様でした。

(記：須田)



長次郎谷を登る



長次郎谷上部



剣沢キャンプ場と剣岳



長いアプローチを歩き熊の岩に到着



剣沢を下る



熊の岩にて



3 ピッチ目



Cフェイス剣稜会ルート取りつき



4 ピッチ目



2 ピッチ目



4 ピッチ目上部から



5ピッチ目上部から核心部を振り返る



完登して記念撮影



6ピッチ目



完登して記念撮影



終了点からの景色（左奥に立山、右下に熊の岩）



ABCフェイス



Bフェイス



北陸新幹線 かがやき



長次郎谷を下る



室堂までもう一息